

會 務

第 22 卷 第 6, 7 號 昭和 11 年 7 月

役 員 會

第 2 回常議員會 (11.5.18)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井，
沼田，宮長，宮本，河口，蒲，小野，菊池，
關，立花，吉田各常議員，那波前會長

報 告 事 項

1. ポルトランドセメント同業會本會賛助員の件に就き關西支部よりの回答を報告せり、併して本件に關しては再回答を待つて更に協議することとせり。

2. 第 24 回視察旅行を豫定の通り開催しその経過を報告せり。

3. 他學會關係委員會の経過を下記の通り報告せり

(1) 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會
(本會誌第 21 卷第 11 號彙報欄 神原信一郎氏報告參照)

(2) 日本工學會用語統一調查委員會

用語統一調查委員會經過報告 (第 5 回)

本年度に於ける議事並會務の経過に就き其概略を記し報告に及び候也

追て本委員會は本年 3 月を以て用語統一調查委員會第 2 讀會を終了致候而して啓明會より本委員會に對する補助は第 2 讀會迄なるを以て茲に該援助による分は完了せし事と相成候に付申添候

昭和 11 年 3 月 16 日

用語統一調查委員會委員長 鳥谷 敏 郎

日本工學會理事長 眞 野 文 二 殿

1. 議事經過概要

本年度に於ては昭和 10 年 4 月 1 日開催の第 116 回委員會以後 32 回の委員會を開催し審議せる事項左の如し。

1) 一般共通用語

一般共通用語の第 1 讀會は昭和 10 年 3 月にて終了せるを以て本年度に於ては之に引続き第 1 讀會にて既に決定せる用語を再び議案として第 2 讀會を開催し之を審議し昭和 11 年 3 月 16 日を以て之を終へたり。

審議語數左の如し

	審議語數	決定語數		審議語數	決定語數
A	545	311	J	24	21

B	491	265	K	28	15
C	1211	828	L	144	113
D	405	217	M	198	156
E	323	203	N	57	54
F	265	204	O	96	87
G	165	143	P	200	172
H	228	166	Q	19	18
I	193	114	R	240	207
S	496	461	W	111	105
T	246	221	X	4	4
U	21	20	Y	4	4
V	62	61	Z	7	7

2) 一般共通用語以外のもの

6 月 17 日第 124 回委員會に於て一般共通用語審議の後商工省臨時産業合理局内工業品規格統一調査會より日本工學會へ諮問有之たる金屬材料抗析試験片及金屬材料の機械的試験に關する術語の意義に關する件を議題に供し其の審議の結果を工學會理事長に報告せり。

9 月 16 日第 129 回委員會に於て一般共通用語審議の後資源局より日本工學會へ諮問有之たる原材料標準用語案を附議し審議を終へ其の結果を工學會理事長に報告せり。

(3) 日本工學會コンクリート試験方法調査委員會

萬年會援助によるセメント試験方法に

關する研究報告 (第 2 回)

昭和 11 年 3 月 14 日

日本工學會理事長

眞 野 文 二 殿

セメント試験に關する委員會

委員長 大 河 戸 宗 治

報 告

1. 研究經過 セメント試験方法に關する本研究は前報を以て其大綱を決したのであつた、其後既に来せる假案に基き再度實驗的検討を行ひ、二細部に對し変更を加へたり。

次に前報に於て未決定なりし下記 2 項目に對し一応の結論に到れり。

a. 強度短期推定法： 4 週強度を短期に推定し得ることは實用上極めて必要なることなり。此點に關し、加熱法を始め、種々の方法を比較研究せるも、結局最も單純に 3 日、7 日の兩強度より 4 週強度を推定する方針とせり。

b. 強度の規格値： 市販各種セメントに就ての結果

にコンクリートとしての必要なる強度の両方面より応の規格値を定めたり。尤も此點は今後暫く継続研の豫定なり。

かくて目下強度新試験法の案とせるものは別紙の如。

3. 會計報告：省略

セメント強度試験方法案

試験体

形状及び大小 4×4×1. cm 角棒

加方法

応用の種類 曲げ試験により曲げ破壊係数を求め、然る後兩折片を以て圧縮試験をなし圧縮強度を求む。

曲げ試験 支點距離 10 cm 中央集中荷重、支面は填充時の側面とす。

圧縮試験 加圧面は 4×4 cm とし折片に於ける填充時の側面中央部とす。

砂、産地 朝鮮産徴粒砂 1 種とす。

フロー試験

型 上径 7 cm, 下径 10 cm, 高 6 cm.

落 高 1 cm.

回 数 20 回

試 料 強度試験体製作用モルタルによる回数 1 回

填 方 2 層に分ち毎層 16 回突
突棒は直径 4 cm, 重量約 300 g の棒

フロー表し方 擴り後の直径を mm 單位で示す。

(備考) フローの値により強度試験体製作時の突數変化し、又其値は試験報告中に記載する。

割合及水量

下記 2 種類とす、但しセメント使用の目的に応じそ何れかを省略するも可なり。

モルタル割合表 (3 箇分)

種 類	セメント	砂	水
1	700	700	342
2	325	1050	342

練 方

3 箇分一度に手練とす。平均は 3 箇による。

乾練 1 分 濕練 2 分

填 方

突棒 一端 3.5 cm², 他端 2.5 cm² 円形, 長さ約 18 cm, 重さ 1 kg の鉄棒

層數 2 層

突方 フローに応じ毎層下の數だけ突くこと。

フロー 突數

210 以上 0

210~200 8

200~170 16

170 以下 32

養生

始めの 1 日 密閉して水の蒸發を防ぐ。

脱 型 成型後適當の時期に上面のモルタルを型上面に一致する迄削り取りたる後材齡 1 日にて脱型す。

其の後の養生 水槽中

温 度 15°C 以上

試験状態 濕潤

強度の値

セメント	モルタル 種 類	圧縮強度 kg/cm ²			曲げ破壊係數 kg/cm ²			備 考
		3	7	28	3	7	28	
普通ポルトランドセメント	1	100	220	360	30	50	70	28 日強度を基準とし、急を要する場合は 3 日と 7 日とに代る。
	2	50	110	200	20	30	45	
早強ポルトランドセメント	1	200	310	400	45	60	75	3.7.28 日の強度を記す、但し急を要する場合は 3 日と 7 日とによる
	2	90	160	250	25	40	55	
混合セメント	1	80	200	360	20	40	70	ポルトランドセメントと同じ
	2	40	100	200	15	25	45	

(4) 日本工学会工業博物館調査委員會 昭和 9 年に降委員會を開催せず従て第 1 回委員會開催の際外國に於ける工業博物館に就き調査し参考としたる程度なり。

(5) 機械学会水量測定規格制定委員會

水量測定規格制定委員會經過報告

當期中に委員會を 4 回開きました。各種の水量測定方法を各委員が分擔して夫々に關する規格及實驗の資料文献を調査し同時に本学会制定規格の草案を方法別に從つて順次準備中であります。尙堰に關し必要なる實驗を施行中であります。

昭和 11 年 3 月 10 日

水量測定規格制定委員會

委員長 沖 巖

(各回委員會の議事録省略)

4. 本會各種委員會の經過を下記の通り報告せり。

(1) 土木学会用語調査會：昭和 3 年以來 8 箇年に

渉り調査研究を重ね漸く完了を見るに至れり依て完結したる用語を不日土木工学用語集として發行すべく印刷準備中なり。

(2) 維新以前日本土木史編纂委員會：昭和7年以來各地方より蒐集せる資料に依り調査研究を重ね漸く完成を見るに至れり、而して完結したる史料を明治以前日本土木史として刊行することとし豫約を募集したるに応募2,000部以上に達せり。

(3) 關西地方風水害調査委員會：調査研究を完了せり、而して報告書は9月乃至10月發行の豫定なり。

(4) 臺灣地方震災調査委員會：調査研究を完了せり、而して報告書は8號會誌に登載の豫定なり。

(5) 土木學會コンクリート調査委員會：從來發行の鉄筋コンクリート標準示方書及解説の改訂に就き調査研究をなすことあり。

(6) 土木學會振興委員會：本年度第3次委員會を設け學會振興に就き更に振興策を研究中なり。

(7) 土木建築士法案調査委員會：當初建築士法案を土木建築士法案として帝國議會に提出すべく審議を重ねたるもその實現を見る能はず今日に至れり。

決 議 事 項

1. 委員會設置並に委員依頼の件

各擔任部長より委員會設置の報告を説明し次の如く設置することとし委員の選定は理事會に一任せり。

總務部 (1) 土木技術者相互規約調査委員會：我が國に於て未だ技術者相互の規約例へば「エンゲニヤリングエシックス」の如きものなきを遺憾とし之が作成に關し調査研究せんとす。

編輯部 (1) 會誌編輯委員會：會誌の編輯に當り傍々内容の改善研究をなすものとす。

調査部 (1) 鋼橋示方書調査委員會：時代に適應せる鋼橋の設計並に製作の示方書を作成すべく之が調査研究をなすものとす。

(2) 請負工事標準契約書調査委員會：請負工事に關する標準契約書の制定を必要と認め之が調査研究をなすものとす。

法制部 (1) 行政機構改正調査委員會：現在の行政機構に關し改正すべき要點を調査研究するにあり。

東亞部 (1) 東亞連絡委員會：留學生の誘致及指導、歸國後の連絡及後援を図り、更にこの目的を達成する爲め外務省、滿鉄東亞研究會及各學校其他との連絡協力に務む。

(2) 東亞調査會委員會：學術、規格、其他文化

建設上の各種調査、留學生數及其動靜に關する調査各國々内事情其他各種の調査をなすにあり。

2. 既設土木建築士法案調査委員會を解散し新に土木士法案調査委員會を設置することとし委員の選定は理事會に一任せり。

3. 常議員會に附議すべき事項中次の件は理事會に委託することとしせり。

諮問に依り又は建議をなす事項に關し継続反復すべき場合の處置、會員の入退會及転格承認、會誌其他刊行物の寄贈、講演會其他の會合及見学視察旅行等の開催。

4. 貴族院勅任詮衡委請方を政府に再建議を爲すこととし文案は原案の通り決定せり。

5. 講演並に映畫會を6月10日次の如く開催することとしせり。

講演：昭和10年利根川未曾有の出水に就て

(金森誠之君)

映畫：(A) 荒るゝ大利根、(B) 群馬縣下大利根大風水害の實況、(C) 支那、(D) 東洋工業會議實況、(D) 東日國際ニュース

6. 丹那陸道工事誌(鐵道省熱海建設事務所編纂)を本會に於て發行し豫約を募集することとしせり。

7. 入退會の件

原行雄君を會員に、伊藤正君外26名を准員に、荒井茂君外27名を學生員に入會承認し、青木富久君外44名を學生員より准員に転格承認せり。

第3回理事會(昭11-5-18)

出席者 井上會長、辰馬副會長、平山、藤井、沼田、宮長、宮本各理事

1. 委員會設置に伴ふ委員の選定は次回理事會に於て各委員長の出席を求め協議決定することとし先以て委員長の選定を協議し次の諸君を推すことに申合せり。

土木技術者相互規約調査委員會委員長 青山 士君

會誌編輯委員會委員長 關 信雄君

鋼橋示方書調査委員會委員長 田中 豊君

請負工事標準契約書調査委員會委員長 池田嘉六君

行政機構改正調査委員會委員長 八田嘉明君

東亞連絡委員會委員長 久保田敬一君

東亞調査委員會委員長 中川吉造君

土木士法案調査委員會委員長 眞島健三郎君

2. 次回理事會を5月28日開催することとし各委員長の出席を乞ふこととしせり。

第4 同理事會 (昭 11.5.28)

出席者 井上會長, 平山, 藤井, 萩原, 沼田, 宮長, 宮本各理事, 八田, 久保田, 眞島, 大河戸, 田中, 關各委員長。

1. 日本工学会評議員會議事を次の通り報告せり。
理事長 眞野文二君 副理事長 佐野利器君
理事 (庶務) 米村敏郎君 同(會計) 大森西君就任せり。
工学会大會費用負擔額約 3000 円を 15 学会にて會員數に割當て分割すること。

2. 土木学会コンクリート調査委員会委員沼田, 平山, 藤井, 宮本の諸君理事に就任せられたるに付後任に河西定雄, 川口利雄, 大石義郎, 大野博の諸君を依頼せり。

3. 臺灣地方震災調査委員会の経過及結果を次の通り報告せり。調査報告を昭和 10 年臺灣中部地方震害調査報告書として 8 號會誌へ登載すること, 別刷を調査関係者へ配布すること。

4. 工業品規格統一調査會より諮問に係るポルトランドセメント標準規格に早強ポルトランドセメント追加に付コンクリート調査委員会に於ける協議の結果を報告し改正案に對し異議なき旨を回答することとせり。

5. ポルトランドセメント同業會を特別員に入會を承認せり。

6. 振興委員会第 2 部提案事項實行に關しては第 1 次第 2 次振興委員会よりの提案全般につき實行済のものと, 然らざるものを一応整理したる上次同理事會に於て協議することとせり。

7. 各部に於ける本年度支出豫算額 (例へば委員会費, 印刷物等) を作成し次回同理事會に於て協議することとせり。

8. 本年 10 月ベルリンに開催の國際橋梁構造會議出席者へ本會代表依頼の件は總務部長より鉄道關係者に依頼することとせり。

9. 會誌發行日を 7 月より毎月 1 日に変更することとせり。

10. 7 月中の催物計畫は總務部長に一任せり。

11. 新設委員会に關し次の協議を遂げたり。

各委員会委員は別表の通り依頼すること。

委員会數増加の關係上, 委員会開催日の重複を避ける爲, 各委員会開催豫定表を作成すること。

會員に各委員会の進行状況を知らしむる爲今後各委

員會は成る可く中間報告を提出すること。

12. 学会として土木技術に關する顧問を爲すの件 (萩原理事提案) は常議員會に於て協議することとせり。

13. 萬國著作權改訂會議に關しては内務省図書課へ本會として別に意見なき旨回答することとせり。

14. 今後地方委員との連絡を一層密にする爲先づ各委員に学会の近況を報告旁々會員勧誘方其他に關し別紙(省略)書狀を發送することとせり。

土木技術者相互規約調査委員会

委員 井上隆根君	山口昇君	鈴木雅次君
金子源一郎君	徳善義光君	内海清温君
中野深君	川口愛太郎君	竹股一郎君
後藤宇太郎君	藏重長男君	齋藤鼎君

會誌編輯委員会

委員 野坂孝忠君	廣瀬孝六郎君	樫部保君
嶋野貞三君	加藤伴平君	鈴木清一君
岡崎三吉君	板倉誠君	稻葉通彦君
長田誠三郎君	伊藤健雄君	大久保一郎君

鋼橋示方書調査委員会

委員 成瀬勝武君	三浦七郎君	青木楠男君
富樫凱一君	高橋末治郎君	西岡宏治君
尾崎義一君	瀧尾達也君	小澤久太郎君

請負工事標準契約書調査委員会

委員 富永正義君	宮崎正夫君	阿曾沼均君
三浦義男君	瀧淵賢烈君	宮本保君
森田三郎君	上村爲人君	杉本好太郎君
伊藤賢君	錢高作太郎君	近藤鉄太郎君
久保彌太郎君	菅野忠五郎君	三浦宇三郎君

行政機構改正調査委員会

委員 三浦七郎君	鈴木雅次君	山下輝夫君
古川淳三君	堀越清六君	後藤宇太郎君
黒田武定君	立花次郎君	高橋三郎君
田中第二君	兒玉静雄君	大島満一君
三浦貢君	池邊稻生君	小野基樹君
和田重辰君	宮島三郎君	

土木士法案調査委員会

委員 阿部美樹志君	榑島正義君	増田淳君
森勝吉君	高橋甚也君	江橋貞二君
土井源三良君	谷口三郎君	内海清温君
神原信一郎君		

東亞連絡委員会

委員 山崎匡輔君	成瀬勝武君	内田莊一君
----------	-------	-------

末 森 猛 雄 君 佐 武 正 一 君 岡 田 信 次 君
 山 田 暁 君 正 子 重 三 君 鶴 田 勝 三 君
 山 中 寛 治 君 佐 藤 應 次 郎 君 杉 廣 三 郎 君
 直 木 倫 太 郎 君 坂 田 昌 亮 君 本 間 德 雄 君
 近 藤 謙 三 郎 君 山 領 貞 二 君 本 莊 秀 一 君
 永 井 了 吉 君 山 本 弘 君 津 田 正 夫 君
 岸 道 三 君 木 村 芳 人 君 東 森 藏 君
 池 本 泰 兒 君 張 公 一 君 趙 心 哲 君
 易 比 監 君

第 5 回理事會 (昭和 11-6-8)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井，沼田，宮長，宮本各理事

1. 日本工學會より贈られたる工學會大會に於ける本會職員に對する謝禮金は關係職員へ適當に分配することとし分配方を經理部長に一任せり。

2. 鐵道，内務兩大臣に對し來る 10 月伯林に開催の國際橋梁構造會議へ歐洲在留中の各省土木技術者を本會代表として出席せられん事を文書にて願出せり。

3. 各種委員會議事は常議員會に報告する事とせり。

4. 關西支部役員會の決議に依る同支部管内に岡山縣を加ふること並に本部よりの補助金を會員數に依り計算増額要請の件は現在の同支部管内並に岡山縣下會員數を調査したる上更に協議することとせり。

5. 關西地方風水害調査委員會の最終議事を報告し次で完了したる調査報告書を全會員に配布することは豫算外多額の費用を要する關係上之を廢し希望者に印刷費(約 1 円 50 錢)にて頒布することとし豫約を募集することに申合せたり。

6. 工學會大會講演集は 6 號會誌特別號として發行することとし印刷中なるも 7 000 餘円の費用を要するが故に全會員への配布を廢し希望者に印刷費 1 円 50 錢にて頒布することとし豫約を募集することに申合せたり。

7. 土木工學用語の調査も漸く完了を見に至りたるを以て豫約を募集する事とし次の事項を申合せたり。

(1) 正價を 2 円 50 錢とし會員の豫約申込者に限り 1 円 80 錢にて頒布すること。

(2) 用語調査會を常置して將來の改訂増補並に英和工學辭典の改訂に當ること。

8. 役員會，委員會其他の會合開催日を別表(省略)の如く申合せ部長及各委員長に通知して都合を聴取することとせり。

9. 會誌費(諸刊行物費)及事業費(委員會々合費

其他)の追加豫算は改めて調査し協議することとせり。

10. 會費未納 3 期以上に涉る 6 月現在の會員氏名を調査すること。

11. 來る 7 月 8 日(水曜日)土木學會用語調査會中川幹事長並に維新以前日本土木史編纂委員會眞田副委員長に依り委員會の経過及調査研究等に關する談話會を開催することに申合せり。

12. 振興委員會よりの提案事項實行に關しては次回(理事會)に於て協議することとせり。

13. 以上協議事項中自 4 項至 10 項は常議員會に諮ることとす。

總務部記事

土木學會振興委員會第 3 部第 3 回委員會 (昭 11-5-15)

出席者： 太田尾委員長，奥田，瀬戸，南保，本間，松井，野坂各委員，小野寺庶務主任

曩に小委員會に於て協議作成したる都制案を議題として意見の交換をなし次の趣旨に依り更に案を研究することに申合せたり。

趣旨： 我國の土木事業は國運の隆昌に伴ひ異常なる發達を來たし，社會組織の複雑化すると共に其關聯する處益々激増を加へ，到底今日の行政組織を以てしては最早是が統制と圓滑なる事業の遂行を求むること困難なる狀勢に陥りつゝあり。依て先輩技術者は強てより土木省の新設を翹望し合理化されたる機構の下にあつて事務，技術の渾然たる融和を図り土木事業全般の監督，計畫，施工，維持管理を司らんと試みたるも時機未だ到らず現在に及べるものゝ如し。偶々帝都に都制の布かれんとするこの絶好の機會を捉へ第 3 部會は 1 試案を呈示し他都市の範となる帝都に先づ技術者の考案になる理想に近き組織の實現を求むるものである。

土木學會振興委員會第 2 部第 2 回委員會 (昭 11-5-21)

出席者： 古川委員長，稻葉，萩野，金森，金子，河西，木幡，佐藤，榊井，三浦，山下各委員，萩原，平山，藤井各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任

協議事項

1. 貴族院勅任議員奏請方を特別議會中に建議すべき筈の處問に合はざりしは甚だ遺憾なり，依て建議作成の上は速かに有效適切なる措置を採られたき旨會長に進言すること。

2. 前委員會より提案せる次の事項を速かに實行せられんことを再び提案すること。

(1) 各種會議に於ける土木關係代表者には成る可く

職にある適任者を充つる様盡力すること。

差當り震災豫防評議員會に於ける故古市男爵の後任定に際しては本主旨に依ること。

(2) 測地委員會及資源局用語調査會に土木學會代表委員を參加せしむる様盡力すること。

3. 次記の事項に就き各擔當委員に於て研究の上立し次回委員會に提案すること。

(1) 土木図書館の設置計畫：擔當藤井理事，青木委員

(2) 工業教育の改善に關する調査並に建議：擔當田，山口兩委員

(3) 災害防止に關する調査並に建議：擔當佐藤，山兩委員

(4) 土木工事取締規則に關する調査並に建議：擔當野，木幡，梶井各委員

(5) 會員社交機關の設置：擔當金森，高橋兩委員

(6) 基金運用に關する調査：擔當内海，稻葉，金子各委員

4. 次回の委員會を6月18日(木曜日)開催するとせり。

第69回講演並に映畫會 (昭11.6.10)

會場：帝國鐵道協會，來會者：268名

講演：昭和10年利根川未曾有の大出水に就て(會，工学博士 金森誠之君)

映畫：(A) 荒るゝ大根根，全1卷，(B) 群馬縣下利根大風水害の實況，全1卷，(C) 支那，全4卷，

(D) 東洋工業會議の實況，全1卷，(E) 東日國際ニュース全2卷

映畫終了後晚餐會を開く出席者37名

編輯部記事

第6回會誌編輯委員會 (昭11.6.1)

出席者：藤井編輯部長，關委員長，板倉，稻葉，大保，岡崎，總部，鈴木，長田，野坂，廣瀬各委員

1. 第22卷第5號所載論說報告に對する討議依頼を決定せり。

2. 第22卷第5號所載工事寫眞其他に對する討議を決定せり。

3. 第22卷第7號會誌より發行日を毎月1日に更する事とせり。

4. 第22卷第5號及び第7號に下記工事寫眞，講義及び抄録を追加せり。

工事寫眞：竣工せる雷山大橋(5號)，竣工せる草津河底隧道(5號)和歌山國道北島橋(7號)

講演：昭和10年利根川未曾有の大出水に就て(會，工博，金森誠之)

抄録：鉄筋コンクリート管の配筋法(古川)，粘土地盤に於ける基礎圧力(比田)，下水處分に關する時事問題(西村)，下水道及び下水處理場に對する Illinois 州衛生局の推薦(西村)，關門内に於て船舶を安定せしむる爲の貯水池の改良(藤森)，Soviet Russia に於ける圧氣潜函工法(福西)，竹筋コンクリート(糸川)，流量測定用測面器(米谷)

5. 第22卷第8號登載原稿を下の通り決定せり。

論說報告：常願寺川改修計畫に就て(會，工，富永正義)，大阪に於ける驛構内の浸水被害調査(會，坂元左馬太)

討議：天龍川橋梁構桁解式架設工事(准，井山安藏)

同上(著，會，工，藤井松太郎)

調圧水槽の設計條件と漸縮断面を與へての改善方法に就て(會，工博，新井榮吉)同上(著，會，榎本卓藏)

彙報：片持梁の曲げモーメントの簡易算定法(准，増田三次) 鬼怒川改修修繕新河道開闢工事概要(會，工，池田 信)，高山線手山隧道口土砂崩壊事故(會，工，吉川宥直) 高山線第一小谷川橋梁雪崩事故(會，工，吉川宥直) 國際材料試驗協會記事(會，工，近藤泰夫，工博，西原利夫)

抄録：鉄筋コンクリート内部に於ける初応力(糸川)，Buhlgebiet Berlin 國道 Oker 橋梁の建設に就て(糸川)，Denkendorf 高架橋梁に就て(糸川)，鏡縁流出孔(水門)の計算(本間)，廣き取入口と水路との間の取付部に於ける水頭損失の計算(本間)，逆勾配開水路に於ける不等速定流(淺野)

特許紹介：10件及實用新案19件

附録：昭和10年臺灣中部地方震害調査報告(臺灣地方震災調査委員會)

調査部記事

關西地方風水害調査委員會第4回全會(昭11.5.19)

出席者：中川委員長，宮本，青山(代理岡部)兩幹事，山田(代理沼田)，鈴木(代理原田)，三浦，井上(代理岡部)野口(代理山岡)，河口(代理加藤)各主任，沼田調査部長，小野寺庶務主任，五十嵐編輯主任

協議事項

1. 調査報告は9月會誌特別號(關西地方風水害調査報告)として發行すること。

2. 印刷部数は一般會員へ配布の外に各府縣の調査關係者へ寄贈約 1 000 部を併せて約 7 000 部とすること。

3. 調査報告書の印刷に當り編輯係 1 名を囑託すること。

4. 各主査より報告書取纏めのため依頼したる人員數の報告を求むること。

5. 印刷費概算を調査すること。

6. 5 月 29 日(金曜日) 委員會を開催し以上の事項を協議すること。

第 2 回關西地方風水害調査委員會 (昭 11-5-29)

出席者: 中川委員長, 井上(代理岡部), 河口, 鈴木, 關, 平山, 三浦, 宮本各委員, 小野寺庶務主任, 五十嵐編輯主任

第 4 回主査會に於て協議せる事項を議案とし 1, 2, 3 項は原案の通り 4, 5, 6 項は次の如く決定會長に報告することとせり。

4. 各主査に於て報告取纏めの爲に依頼したる 18 名(2 部 4, 3 部 3, 4 部 4, 5 部 5, 6 部 1, 7 部 1 名)に對し 1 名當り平均 20 円計 340 円を謝禮として贈呈すること。

5. 印刷費の概算は 7 000 円なり。

以上の議事を終り中川委員長より本委員會設置以來委員並に主査各位の御盡力に依り調査報告の完了を見て茲に發表するに至りたるに對し深甚なる感謝の意を表する旨の挨拶ありたり。

第 2 回臺灣地方震災調査委員會 (昭 11-5-27)

出席者: 草間委員長, 後藤, 高橋, 藤井各委員, 沼田調査部長, 小野寺庶務主任, 五十嵐編輯主任

1. 高橋, 後藤兩委員に於て取纏めたる調査報告に依り検討し昭和 10 年臺灣中部地方震災調査報告書(約 50 頁)として 8 號會誌へ登載することとせり。

2. 震災調査報告書の別刷を 150 部印刷し 100 部を特別委員長に送附して調査關係者へ配布することとせり。

3. 謝禮として特別委員及取纏めに盡力せられたる委員に適當の物品を贈呈することとせり。

4. 報告書取纏めのため依頼したる人員を調査し適當の謝禮金を贈呈することとせり。

以上の議事を終り草間委員長より本委員會設置以來委員各位の御盡力に依り調査報告の完了を見て茲に發表するに至りたるに對し深甚なる感謝の意を表する旨の挨拶ありたり。

第 3 回コンクリート調査委員會 (昭 11-5-25)

出席者: 大河戸委員長, 内山, 永田, 大石, 大野各委員, 沼田調査部長, 小野寺庶務主任, 五十嵐編輯主任
協議事項

1. 工業品規格統一調査會第二部長より諮問に係る日本標準規格第 28 號ボルトランドセメントに早強ボルトランドセメントを追加に伴ふ改正に付各製造工場セメント強度比較表其他に依り検討の結果改正案の通り異議なきことに決定せり。

2. 鉄筋コンクリート標準示方書並に解釋の改訂版を急速に作成することを申合せり。

第 1 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11-6-12)

出席者: 田中委員長, 三浦, 青木, 西岡, 瀧尾, 宮樫, 高橋, 成瀬各委員

田中委員長より本委員會設置の趣旨説明あり沼田政短君及び小澤久太郎君を幹事に依頼する事とし, 次で鉄道省及内務省現行規定に基き種々意見の交換をなし次回より各細目に互り研究調査を爲す事とせり。

日本工學會記事

○昭和 11 年 5 月 21 日日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり次で下記事項を議決せられたり。

役員選挙の結果眞野文二君理事長に當選次で副理事長及理事の選任は理事長に一任することとなり眞野理事長より次の 3 名を指名し就任せり。

副理事長 佐野利器君, 理事(庶務) 米村敏郎君, 理事(會計) 大森丙君

(1) 第 3 回工學會大會經費中各學會の分擔金は熔接協會を除く 14 學會の會員數に按分し決定すること(分擔金總額を 3 000 円とす)

(2) 職員の中元手當及賞與の件は理事長一任とす

(3) 報告事項の重なるもの。會計報告(別紙省略)。用語統一調査委員會關係事項, 3 月 24 日第 3 次用語審議の件に關し協議せり。第 3 回工學會大會關係, 豫定通り 4 月 4 日開會 4 月 8 日を以て無事終了せり以下略す。故古市男爵記念事業會關係事項, 4 月 18 日傳記部委員會第 13 回會議を開催し準備進捗中なり, 銅像部に於ては銅像臺座の設計應募中より審査の結果當選者 3 名に賞金を交付せり, 寄附申込状況(5 月 20 日現在) 申込總額 31 508 円, 人員 1 332 人なり。

その他の記事

○昭和 11 年 5 月 26 日土木学会誌第 22 卷第 5 號を發行成規の手續を了し 5 月 27 日全會員に配布せり。

○昭和 11 年 5 月 30 日日本工学会 15 学会の職員懇親會を鈴ヶ森濱酒廬に於て開催し本會より柴原書記

長出席せり。

○昭和 11 年 6 月 3 日内務省へ會誌發行日を毎月 1 日に変更の旨届出せり。

○昭和 11 年 6 月 5 日鐵道大臣並に内務大臣へ本年 10 月伯林に於て開催の國際橋梁構造會議へ歐洲在留中の土木技術者を本會代表として出席せしめられんことを書面を以て願出せり。

入會及び転格會員

(昭 11.5.18 手續了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
會 員 (入 會)					
原 行 雄君	鐵道省熱海建設事務所	准 員 (入 會)		平 島 高 義君	京都府土木部道路課
伊 藤 正君	樺太鐵道株式會社	桑 山 三 郎君	滿鐵經濟調査會第三部	前 出 繁 吉君	東京市水道局擴張課
内 海 義 男君	岡山縣笠岡土木出張所	古 閑 勝 君	門司鐵海局工務課保線掛	三 宅 丈 夫君	愛媛縣土木課
遊 藤 淳 治君	奉天鐵路局工務處保線科	近 藤 弘 雄君	石川島造船所	山 内 昇 君	仙臺鐵道局工務課改良掛
緒 方 智 男君	九州送電株式會社	佐 田 悦 二君	内務省大分港修築事務所	山 中 保 君	京都府岡山市土木事務所
及 川 久 君	日本電方株式會社	鈴 木 與 四 次君	東京市水道局擴張課	吉 野 英 雄君	東京市水道局擴張課
河 野 正 敏君	鹿島組	高 村 克 巳君	内務省島津川改修事務所	岡 林 稔 君	朝鮮總督府内務局土木課
菊 田 清 六君	靜岡沼津港修築事務所	玉 井 峯 雄君	滿洲關道局團工區	田 村 端 吾君	大軌電車土木部
清 原 清 君	滿洲國々道局第一技術處	豐 村 哲 夫君	佐世保海軍建築部	加 茂 野 延 君	内務省三角港修築事務所
栗 原 重 之君	東京市水道局擴張課	長 川 桂 一君	山口縣土木課		
学 生 員 (入 會)					
荒 井 茂 君	日大工學部	鎌 田 千 代 士君	日大工學部	高 橋 吉 郎君	熊本高工
荒 尾 宗 夫君	熊本高工	川 元 有 恒君	仙臺高工	高 橋 脩 一君	日大工學部
新 井 三 郎君	山梨高工	河 東 保 君	早稻田高工	土 屋 均 君	仙臺高工
池 部 春 生君	熊本高工	喜 内 敏 君	京都帝大	土 肥 晃 君	徳島高工
石 田 親 信君	熊本高工	菊 池 貞 雄君	仙臺高工	友 田 省 治君	名古屋高工
小 野 敏 夫君	早稻田高工	佐 藤 清 一君	北海道帝大	丸 尾 舜 亮君	神戸高工
尾 田 政 雄君	徳島高工	佐 藤 敏 夫君	仙臺高工	森 田 啓 君	關西高工
加 藤 善 吉君	東京高工	柴 田 高 次君	日大工學部	眞 野 茂 夫君	仙臺高工
加 茂 林 八 郎君	仙臺高工	千 田 正 君	〃		
尾 辻 二 男君	熊本高工	高 谷 具 見君	〃		
准 員 (転 格)					
青 木 富 夫君	東京府第二河川改良事務所	大 木 信 男君	内務省大澁川改修事務所	木 村 壽 夫君	栃木縣土木課
淺 靖 靖 君		加 藤 静 雄君	鐵道省工務局改良課	木 村 富 士 生君	
宍 江 義 晴君	横河橋梁製作所	河 上 房 義君	陸軍築城部本部	國 分 正 胤君	東京府土木部河港課
五十嵐 修 作君		河 原 非 正 夫君	東洋コンプレックス株式會社	道 瀬 士 良 一君	内務省横濱土木出張所
稻 葉 壽 一 郎君		川 口 源 九 郎君	臺灣總督府交通局鐵道部改良課	佐 藤 武 君	
小 形 英 二 君	滿洲電業株式會社	木 原 刀 君	山梨縣土木課 (予定)	齋 藤 孝 三 郎君	株式會社問租

須藤 靖君 鉄道省建設局工事課
 田邊 文治君 名古屋鉄道局工務課保線掛
 大日 森男君 群馬縣土木課
 武澤 一郎君 大阪市水道部下水課
 武田 哲美君 東朝野土木部道路課
 谷 藤正三君 内務省松橋園道改良事務所
 鳥井雅太郎君 帝國電力株式会社
 内藤 和夫君
 中村 菊次郎君

林 正典君 朝鮮總督府鉄道局城津鉄道事務所
 日置 秀雄君 大日本電力株式会社
 福井吉三郎君 逓信大臣官房文書課
 藤田 房雄君 朝鮮總督府内務局土木課
 藤本 得君 矢作水力株式会社
 星野 出雲君 神奈川縣土木部道路課
 堀上 健一君 滿鉄鉄道部工務課
 堀松 和夫君 朝鮮總督府鉄道局建設課
 本間 良一君 門司鉄道局門司保線事務所

松下 元三君 鉄道省米子建設事務所
 三井 正夫君 東京電機株式会社
 宮澤 吉弘君 鉄道省建設局工事課
 富田 和正君 名古屋鉄道局工務課改良掛
 森 清君 鉄道省岐阜建設事務所
 森 敏博君 愛知縣都市計畫課
 渡部 節也君 合資會社清水組
 阿部 孝君 内務省大湊川改修事務所
 里 吉忠典君 内務省島神川改修事務所

土木學會々員數

(昭和 11.5.18. 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
2709	2716	499	2	20	5943

圖書及雜誌

(昭和 11 年 5 月中)

交 換		寄 贈	
業務研究資料	第24卷第11號	日本鑛業會誌	第52卷第613號
建築雜誌	第50輯第612號	地震研究所彙報	別冊第3號
電氣學會雜誌	第56卷第5册 第574號	鑄 物	第8卷第5號
工業化學雜誌	第39編第5册 第459號	セメント界彙報	5月號第338號
鉄 と 鋼	第22年第4號	國立公園	第8卷第5號
機械學會誌	第39卷第219號	工業現勢	第5卷第5號
港 灣	第14卷第5號	直江津港修築計畫概要	昭和11年4月
建築と社會	第19輯第5號	坂出港修築計畫概要	昭和11年4月
水通協會雜誌	第36號 11年5月	無線資料	第1卷第2號
衛生工業協會誌	第10卷第5號	工 学	第261號 11年5月
滿洲技術協會誌	第13卷第86號	日本ポルトランドセメント業技術會委員報告	第23號ノ8
工 政	第192號 11年5月	工事畫報	第12卷第5號
熔接協會誌	第6卷第3號	学 報	第5卷第5號
滿洲建築雜誌	第16卷第5號	名古屋工業會會報	第157號 5月號
土質調査委員會報告	第4輯	工學部紀要	第3册第8號
技術日本	164號 5月號	エンジン	第15卷第161號
造船協會雜誌	第170號 11年5月	鐵道技術	第10卷第6號
帝國學士院紀事	第12卷第4號	重要鑛物資源資料目錄	
Proceedings.	vol. 62, No. 4,	日立評論	第19卷第5號
日本建築士	第18卷第4號		
歐米の火力發電所を視察して	第22號		

機械學會論文集 第2卷第7號 機械學會
 土木建築雜誌 第15卷第5號 シビル社
 香川之耕地 創刊號 香川縣耕地協會
 庭樹の病蟲害驅除豫防法に就て 東京府
 工業化學雜誌 第39卷第5號 工業化學會
 文別冊
 利根 第2卷第5號 利根製作營業所
 會務彙報 第53號 日本土木建築請負業聯合會
 Excavating. vol. 30, No. 4 三井物産機械部
 下水工學 北澤貞吉
 建築術語集 建築學會
 建築學會五十年略史 建築學會
 製鉄用術語集 日本鉄鋼協會
 鐵道 平井喜久松
 流量表 池田篤三郎
 日本大堰壩臺帳 大堰壩國際委員會日本國內委員會
 東京土木建築業 第9卷第5號 東京土木建築業組
 組合報 合

信 號 第9卷第3號 信 號 會
 鐵道信號保安設備の現況 信 號 會
 工學院同窓會誌 第38卷第6號 工學院同窓會
 セメント工業 昭和11年6月 セメント工業社
 三菱電機 第12卷第4號 三菱電機株式會社
 九州帝國大學工 第11卷第2號 九州帝國大學工學
 學彙報 部

購 入

Der Bauingenieur, 17 Jahrgang, Heft, 15-18 mai
 1936.
 Beton und Eisen, 35 Jahrgang, Heft, 7-9 mai 1936.
 Die Bautechnik, 14 Jahrgang, Heft 19-20 mai 1936.
 Engineering News-Record, April 1931, vol, 116,
 No. 11-17.
 Le Genie Civil, Tome CVIII No, 15-19, mai 1936.
 A Magyar Mernok, es Epitesz Egylet Kozlonye
 LXX, Kotet 15-20.

會員 男爵松村務君 昭和 11 年 5 月 17 日逝去せられたり本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會員 小岩春治君, 境 治義君, 鈴木保治君, 松島義雄君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 金田義雄君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

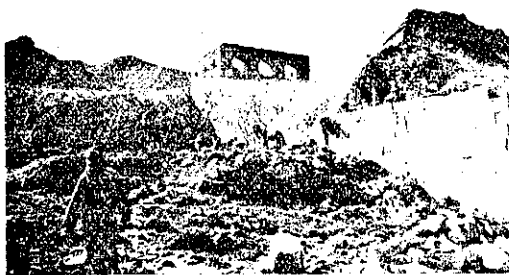
會 報

第 22 卷 第 6 号 7 號 昭和 11 年 7 月

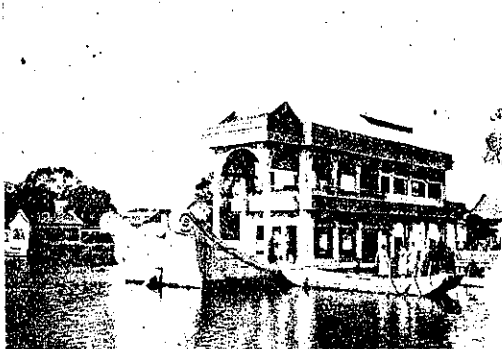
講演會及映畫會記事

6 月 10 日午後 5 時より第 60 回講演會及映畫會が鉄道協會に於て開催された。映畫の會は昨年始めて催されたが非常な成功を収めたので、本年も講演會を兼ねて之を行ふ事とした。期待の通り開會前より非常に多數の會員が參集し堂を滿した。始め金森博士より“昭和 10 年利根川未曾有の出水に就て”と題する講演あり(本誌講演欄參照)。昨年の大洪水の模様を就て博士が親しく現地を視察された狀況を話され、“軍部は外國の敵に對し數億の豫算を以て國防の充實を期してをるが、我々は自然の敵に對し之と同様、否之以上の防備が必要である”と力説されて降壇された。終つて映畫會に移り、始め内務省東京土木出張所撮影の“荒るゝ大利根”が映寫された。本映畫は金森博士が危険ををかして撮影の指導をされたもので荒るゝ大利根の姿を目のあたりに見せられ自然力の偉大さに更め

萬里の長城



萬里山の石罅



龍門の石窟

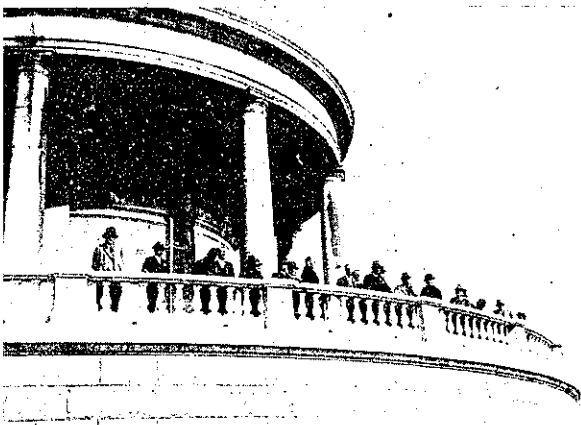
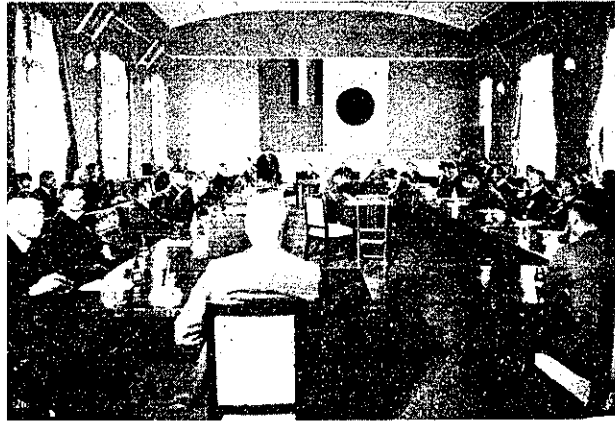
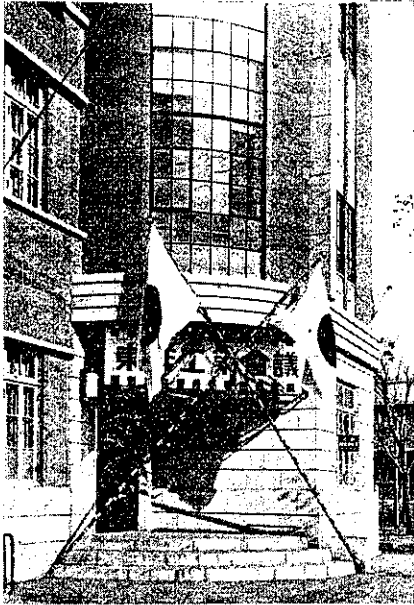


て心を打たれたのであつた。若し利根川改修の工事が行はれてみなかつたならば、今回の洪水が東京始め關東一帶に如何に大なる被害を興へたかを思ひ我々技術者の責任の重大なる事を痛感したのであつた。

次に同じく昨年の洪水に依る群馬縣下風水害實況の寫眞が映寫され、同じ様な感嘆に打たれた。引続き“支那”と云ふ映畫が映寫された。之は北平、天津、洛陽等の風景及農村の模様、漢口、揚子江、南京、上海、杭州等の風物及び日本海軍の活動模様等を寫されたものであつた。

次に昨年 10 月より 11 月にかけて支那各地で開催された東洋工業會議の日本側代表一行の旅行を撮影せる記念映畫が映寫された。中に本會代表の活躍姿も見え、會員の拍手のうちにこの記録映畫を終り、最後に東日國際ニュース 2 卷の映寫があつて本日の講演會及映畫會を終つた。映畫終了後別室食堂に於て有志の晩餐會が催され、會員 37 名の出席があつた。

東洋工業會議の寫眞



會 告

關西地方風水害調査委員會事業終了に就て

會 長 井 上 秀 二

昭和9年9月21日突如近畿地方に襲來した大颱風に因る災害に關し調査を行ふ可く同年10月本委員會を設置しました處本年5月漸く調査の完了を見各部門に涉り被害の原因被害の狀況災害對策等に就いて貴重なる報告資料を蒐集發表出來ることになりましたことは偏に委員各位並に關係官廳、市當局及關係諸會社の御盡力による賜と深く感謝の意を表する次第であります。委員會の事業完成の今日茲に會員を代表し謹んで御挨拶申し上げる次第であります。

臺灣地方震災調査委員會事業終了に就て

會 長 井 上 秀 二

昭和10年4月21日臺灣中部地方に起りました地震に因る震害に關し調査を行ふ可く同年5月本委員會を設置しました處本年5月漸く調査の完了を見茲に被害の原因狀況對策等に就いて得難き資料を蒐集報告發表することが出来る様になりましたことは偏に委員各位の御盡力に依る賜と深く感謝する次第であります。殊に堀田特別委員長始め特別委員各位の御努力に對しては厚く謝意を表する次第であります。委員會の事業完了に際し會員一同を代表して御挨拶申し上げる次第であります。

會 告

土木技術界の勳勞者中より貴族院勅任議員を詮衡奏請せられむことを昭和 9 年 6 月 25 日本會役員會の議を経て建議したるも未だ其の實現せざるを遺憾とし先般重ねて内閣總理大臣並に各國務大臣に建議し併せて貴族院正副議長並に土木關係の樞密顧問官及貴族院議員に對し建議書寫を添へ趣旨達成のため盡力賜り度旨文書を以て依頼せり。

建 議

政府は土木技術界の勳勞者中より貴族院勅任議員を詮衡奏請せられむことを望む

理 由

貴族院令第 1 條第 4 號に依る勅任議員は歴代の政府に於て政界学界實業界等の功勞者中より詮衡奏請せらると雖も別表に示す如く從來技術界の功勞者又は權威者にして其の選に與りし者極めて稀なるは本會の甚だ遺憾とする所なり。

惟ふに貴族院令第 1 條第 4 號の趣旨は常に國家に對する朝野の勳勞者を優遇するに止まらず帝國議會に各方面の權威者を網羅して其の實質を整へ以て立法府の機能を發揮せしめんとする點に存するを信ず。隨つて土木事業費が歳計の中樞をなせる我國に在りては議會に於ける之が豫算の審議に方り協賛の完璧を期せんがため土木事業の本質内容に通曉せる専門家議員の檢討を必要とするや論なし。

仍て政府は一は以て斯界に於ける功勞者を優遇して其の功績に酬ひ他は以て議會の内容を充實して其の機能を完からしむるため土木技術界の勳勞者中より貴族院勅任議員を詮衡奏請せられむこと本會の切望して已まざる所なり。

右は曩に昭和 9 年 6 月 25 日本會役員會の議を経て建議したるも未だ其の實現せざるを遺憾とし茲に重ねて及建議候也

昭和 11 年 5 月 30 日

社 團 法 人 土 木 学 會

會 長 井 上 秀 二

〔別 表〕

勅任議員出身別員數表（貴族院令第 1 條第 4 號に依る）

行政官	62 名	實業家	24 名
教育家	10 名	醫師	3 名
代議士	7 名	外交官	6 名
軍人	5 名	司法官	2 名
技術家	1 名	計	120 名

既刊會誌殘部内譯

(は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	金額(1部)
5																							1.00
6																							1.00
7																							1.50
8																							2.00
9																							2.00
10																							2.00
11																							2.00
12																							2.00
13																							2.00
14																							2.00
15																							1.00
16																							1.00
17																							1.00
18																							1.00
19																							1.00
20																							1.00
21																							1.00
22																							1.00
																							1.50
																							1.80
																							3.00
																							18.00
																							11.00
																							0.50
																							1.00
																							5.50
																							0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京116828番に郵便用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告 1回 1頁 35円 1回半頁 20円

指定廣告	裏表紙3面 向及廣告初頁	1回 1頁 40円
		裏表紙3面 1回 1頁 70円
		色 1回 1頁 60円

○指定廣告は凡て1箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同今廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引きとす

○廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する費を別に用受くるものとす

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納期 第1期分：3月 第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮・滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄				
委員	伊 藤 健 雄	坂 倉 孝 誠	稻 葉 通 彦	大 久 保 一 郎	
	岡 崎 三 吉	加 藤 伴 子	櫻 部 保	嶋 野 貞 三	
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 忠	廣 瀬 孝 六 郎	

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII, NO. 6, 7, JULY 1936.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.....	47
Addresses.	
Shield Tunneling as Employed Today. <i>By L. R. Craft.</i>	583
Record Floods of the Tone-River in 1935. <i>By Sigeyuki Kanamori, Dr. Eng., Member.</i>	587
Papers.	
Soil Mechanics Research on Dry and Wet Sand. <i>By Ryôkei Ono, Dr. Eng., Member.</i> <i>Kôzô Manai, C.E., Member.</i>	591
Report on the Construction of the Ôi-River Water Power Plant. <i>By Sigeru Gotô, Member.</i>	607
Discussions.	639
Notes on Matters of Interest.	647
Abstracts of Selected Articles.	691
Patent News.	727

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.